

①幼年時からフランス留学に至るまで（1854-1880）

（明治5年までは陰暦を〔 〕で示した）

西暦	和暦	歳	古市の足跡	国内および土木
1854	安政元	(満)	09.04[閏 07.12] 江戸蠣殻町の姫路藩中屋敷に生れる。幼名は兵庫郎	02.13[01.16] ベリー再度来航 03.31[03.03] 日米和親条約（下田・函館の2港を開港）
1858	安政5	4		07.29[06.19] 日米修好通商条約調印。同年、仏・露・蘭・英とも調印
1859	安政6	5		06.02[05.02] 横浜・長崎・箱館開港
1863	文久3	9	一家は姫路に移る。藩校「好古堂」にて漢学及び国学を学ぶ	01.10 英、ロンドンに世界初の地下鉄開通 08.15[07.02] 薩英戦争
1865	慶応元	11	一家は再び江戸に出府する。勤学生を命じられ、上屋敷内の学問所に通う。剣術は直心影流、弓術は太子流を習う	11.15[09.27] 幕府、横須賀製鉄所を起工（造船技師ヴェルニー：エコール・ポリテクニク出身）
1868	慶応4 明治元	14	03[02] 姫路藩は藩邸を朝廷に上納。政情不穏のため藩主酒井忠績の護衛に当たる。父の勧めで勉学に精進し冬より英語を学び始める。	01.27[01.03] 戊辰戦争おこる 10.23[09.08] 明治と改元
1869	明治2	15	02.27[01.17] 開成所の開校と同時に入学する。講習（地理、歴史・物理）、語学、数学の三科を修め、語学は仏語	11.17 スエズ運河開通
1870	明治3	16	08.23[07.27] 藩の貢進生として大学南校に入学	12.12[閏 10.20] 工部省設置
1872	明治5	18		03.24[02.16] ファン・ドールン来日 10.14[09.12] 新橋-横浜間に鉄道が開業
1873	明治6	19	04 開成学校に設置された諸芸学科に進学	11.10 内務省設置
1874	明治7	20		05 淀川低水工事を開始
1875	明治8	21	07.10 諸芸学修業のため仏国留学を命じられ、米国を経由し9月1日パリに到着。エコール・モンジュに入学する	06.16 利根川低水工事を開始
1876	明治9	22	10 エコール・サントラルに6番の成績で入学	08.14 札幌農学校開校式 12.01 大阪-京都間に鉄道開通
1877	明治10	23		01.19 内務省に土木他7局を設置
1878	明治11	24		04.15 工部大学校開設 野蒜港、三国港着工
1879	明治12	25	08 エコール・サントラルを7番の成績で卒業。11月パリ大学理学部に入学	07.10 東京大学理学部第1回学位授与式 11.08 工部大学校第1回学位授与式 11.18 工学会創立
1880	明治13	26	07 パリ大学を卒業 09.01 パリを出発 10.21 横浜に到着	06.28 逢坂山トンネル開通。日本人のみの初めての施工



①-1 古市と父・孝（1870年撮影『古市公威』所収、土木図書館所蔵。以下特に断りのない場合は同館蔵を示す）



①-2 古市（右）と石本新六（1871年撮影『大学々生溯源』所収）

古市は、14歳にして開成所に入学し、以後6年間、わが国に初めて誕生した本格的エリート学生集団におけるリーダーの一人として学内外で活躍した。当時の彼の様子を伝えるこんな描写がある。

「古市は年齢の割合に老けて見えた。而して其容貌が老熟してみたのみならず、其思想が亦早く稚気を脱してみた。」

こうした大人びた風貌を備えた青年古市は、「大学南校、開成学校時代の歴史的イベントにして彼の関係して居らぬものは殆どな」といわれたほどの行動力を発揮した。